

NOW 市政の動き・自分史

city government now
一宮市政報告新聞
一宮市議会議員 岡本将嗣

一宮市議会
3月定例議会
2月26日開会、3月24日閉会



令和7年度 基本姿勢

コロナ禍からの経済回復に伴う物価高騰は、近年経験したことのないペースで進んでいます。人手不足に伴う人件費の上昇も、企業経営だけでなく地方公共団体のコスト増の要因として大きな影響を及ぼしています。予算編成においては、これまででも事業の選択と集中を行い、行政の合理化・効率化、さらには広域化や共同化により、行政コストを節減し、市民の皆さまがメリットを享受出来るまちづくりを目指し、必要な事業を絞り込んできました。令和7年度は、さらに事業を「厳選」し、未来への「投資」にも意識をシフトした予算編成としました。

本市は、中核市に移行して、令和7年度で5年目を迎えます。現在建設中の新保健所もいよいよ開所

します。これからも市民の皆様さまの安全・安心を高めるとともに、健康な暮らしを支えていくため、健康や福祉、子育て支援、交通インフラの整備など市民生活に密着した様々な施策に引き続き取り組みます。



3月議会、一般質問、トップバッターで登壇

また、令和6年は1月の能登半島地震に始まり、8月には「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表され、地震への備えを改めて考えさせられた年になりました。自然災害に対する不安が高まる中、市としても災害への備えを着実に進めています。

昨年、時事通信社が発表した「全国自治体DX推進度ランキング2024」において、一宮市は全

令和7年度 予算規模

国2位と評価されました。これまでもインターネットのオンライン手続きや役所の「書かない窓口」などデジタルを活用した業務の改革、いわゆる「DX」を積極的に進めてきました。しかしながら市民目線に立てば、まだまだ工夫できることはたくさんあり、国も含めたデジタル行政改革はスタート地点に立ったばかりと受け止めています。ランキングの結果に身を引き締め、市民の皆さまが暮らしの中で利便性を感じられるよう、デジタルも活用しながら、特に改革に重きをおいて、DXをさらに推し進めます。

令和7年度の一般会計の予算規模は、当初の予算額としては過去最大の1,443億1,000万円となり、前年度に比べた増加は87億7,000万円、率にして6.5%の増額となりました。

一般会計と特別会計・企業会計を合わせた全会計では、2,798億9,000万円余となり、前年度に比べた増加107億3,000万円余、率にして4.0%の増額と、近年の物価上昇などの影響もあり、過去最大の予算規模となりました。

まず、一般会計につきましては、社会保障費の増などにより民生費で48億3,000万円余の増額、消防緊急通信指令システムの更新により消防費で14億5,000万円余の増額となる一方で、教育費は東浅井給食センターが完成したことなどにより減額10億7,000万円余となりました。

それらの財源となる歳入のうち主なものとして、市税では、令和6年度に国が経済対策として実施した定額減税の影響もあり、前年度と比較して大幅な増加38億5,000万円、率にして7.6%の増額となりました。市の税収としては、過去最高額を更新する見込みです。

また、国が示す地方財政計画により、普通交付税は10億円の増額とする一方、臨時財政対策債では平成13年度の制度創設以降、はじめて発行予定はゼロとなりました。

そのほか、社会保障費の増額に伴い、国庫支出金では26億2,000万円余の増額、県支出金は約7億円の増額となりました。

なお、繰入金については、財政調整基金から47億円の繰入計上しました。

特別会計・企業会計の主なものは、

経験を
力に変えて
有言実行



岡本 将嗣

MASASHI OKAMOTO



このニュースは、日常の議員活動や議会・市政の報告を目的として、話題となっている情報等をピックアップし、不定期に発行するものです。

発行所：岡本まさし事務所
住所：一宮市松降1-8-5
連絡先：0586-85-8034

HP <http://masashi-okamoto.com>

今回の一般質問

●浄化槽設置補助金について

介護保険事業では、介護サービス給付費の伸びなどにより13億4,000万円余の増額となる一方で、水道事業会計では、令和6年度に実施した木曾川配水場の改良工事の完了などにより、5億8,000万円余の減額となりました。

環境問題の中で、水環境の保全是身近で重要な問題です。公共用水域における水質汚濁は、事業系の排水については規制等により水質改善に一定の効果を得ている一方、生活排水については、し尿が法律上何らかの処理が義務付けられているのに対して、台所・洗濯・風呂等から生じる生活排水は、ほとんど規制を受けておらず、水質汚濁の要因として占める割合が非常に大きいと言えます。この生活雑排水の適正処理が、公共用水域における水質汚濁の原因を取り除くことが重要なカギを握っており、これを推進していくことが必要です。

一宮市も、「単独処理浄化槽」や「くみ取り便槽」を「合併処理浄化槽」への転換設置を進め水質保全を図り、「浄化槽設置補助金」を交付していますが、転換するために、市

民には多くの費用負担がかかります。

浄化槽には各住宅が個別設置する浄化槽のほか、昭和40年代から50年代かけて多くの戸建て住宅団地が建設され、こうした住宅団地では1つの浄化槽で集中処理する大型浄化槽があります。設置から年数が経ち老朽化が進んでおり、その維持管理について一部補助もありませんが、戸別への補助金の対象になりません。各戸が個別設置する合併処理浄化槽へ転換したいとの声を聞く中、国庫助成の制度も引き出し、老朽化した大型浄化槽に代えて公共浄化槽として市が設置・管理していくことができないかとの質疑に対し、公共浄化槽制度は、市町村が戸別の浄化槽、あるいは大型浄化槽を設置・管理するものですが、公共事業として実施していくための財政的な負担など、多くの課題がある。時間をかけて今後研究するとの答弁。

今後、大型浄化槽から戸別の合併処理浄化槽への転換設置は、多額の負担がかかります。高齢社会の進展に応じた合併処理浄化槽への普及促進と将来を見据えた対策をぜひ一宮市において検討していただく

ことを願いました。

●キャッシュレスポイント還元キャンペーンについて

今年度で6回目となったキャッシュレスポイント還元キャンペーン、実施することにより手に入れたデータを用いて分析を行い、今まで気づかなかった一宮市の特色を見えないかと思ひ質問した。

回を追うごとに決済金額が伸びています。第1回は約9億9百万円、第6回が約33億9千9百万円と、第1階に比べ3.7倍ほどになりました。回数を重ね、利用する方や、利用できるお店が増えた事も要因であり、キャンペーン実施月以降でもキャッシュレス決済金額が底上げされた検証結果が出ています。年代別では50歳以上の利用率が、取引金額ベースでは50%に迫るともわかりました。よく利用されている業種が小売業、飲食業、サービスの順で、小売業の中でもスーパーマーケット、次にドラッグストアとなっています。

一宮市では過去に、プレミアム付商品券である、「いちみん商品券発行事業」を導入しましたが、20%のプレミアム分が付いた商品券を10

億円分発行した場合、2億円のプレミアム分が付きますが、事務費が約21%かかり、キャッシュレスポイント還元キャンペーンですと、プレミアム約3億円のポイント還元で事務費が2千9百万円と約9.6%となり変更した経緯です。事務費一つを取っても紙の商品券とキャッシュレスポイント還元では、2倍以上の事務費の違いと、紙の商品券を買うために朝早くから並んでも、買えなかった場合には全く使うことができません。キャッシュレスポイント還元キャンペーンでは、スマートフォンが必要ですが誰でも参加できます。ポイント還元率も、10%上限を、『13.8%』いちのみやにちなみアップしても良いのかとも思っています。社会情勢に即した施策、市民ニーズにあった事業実施を願ひ今回の質問を閉じました。

イチ推し20

●令和7年度の当初予算の中で特に重点として取り組むべき事業をピックアップ。



QRコードスキャン

岡本将嗣のアルバム

今年で90歳(卒寿)を迎えた父親と、自宅でお祝いをしました。母も含めてお祝いをしたかったのですが、昨年末に大腿骨を骨折、さらに脳梗塞になり現在入院中です。今年6月で母親は85歳になります。二人暮らしだった両親、一人の生活になった父親、少し寂しそうです。私は60歳(還暦)を迎えました。5人の孫たちに囲まれて、お祝いをしてもらいました。50・80問題、さらには60・90問題に向き合います。



食事前の父親の喜ぶ顔



入院中の母親



還暦のお祝いで集まる孫